

エンテロウイルス感染症 —散発例の病像と診断に関する問題点—

(財)田附興風会医学研究所北野病院小児科

鳥居 昭三

日本パプテスト病院小児科

友吉 瑛子

研究目的

前三年間の班研究に於いて、新生児中枢神経系ウイルス感染症の病因として、エンテロウイルス(EV)が最も重要であること、新生児室でのウイルス水平感染の主因としてもEVが重要であることが明らかにされた。そこでその予防対策の一つとしての、EV感染散発例の早期診断の基礎として、病像の早期把握、ウイルス学的早期診断の方法の検討などが重要な課題と考えられる。その究明のためにはEV散発例の可及的多数例の集積と、それによる病像の把握が先決である。

研究方法

諸種の症状を呈する新生児の糞便、咽頭ぬぐい液、髄液、尿より、HEK、MK培地によりウイルス分離を試み、かつ、血清中和抗体価、補体結合抗体価を検討し、症例の産科学的因子、病像を併せて検討した。

結果

1) 現在までに39例の散発例を得た。うち35例はウイルスの分離により、4例は血清中和抗体価により診断した。

2) ウイルス分離は35症例について表1の如く糞便より最も多く陽性で、計56株を得た。その血清型も表1の如く、Coxsackie B群が最も多く、とくにB3型が最多を占めた。従来報告に比しCoxsackie A群の比率が高く、とくにA9の新生児への親和性が明らかとなった。

3) 発症季節はEVが夏期に多いとの従来の報告と同様の結果を得たが、冬期にもみられる点で、他の季節の検索も今後重要と考えられる。発病日齢は日齢~7が26例を占め、垂直感染が示唆され、また生後早期の水平感染が含まれる。日齢8以後の家族よりの水平感染によるものは13例であった。

4) 臨床症状は発熱24例が最多で、黄疸(高ビリルビン血症)14例がこれに次ぐ。吐血、下血11例及び溢血斑5例がみられ、出血傾向が注目される。これに対し嘔吐は7例、下痢2例と少数であった。呼吸障害は4例であったが今後、未熟児の無呼吸発作なども検討を要するものと考えられる。

5) 病像では無菌性髄膜炎が30例、無菌性髄膜脳炎3例、計33例(84.6%)で、中枢神経系への親和性が注目される(表2)。

6) 産科因子との関連をみると、表2、3の如くで、39例全例が正産で、低出生体重児も4例にすぎず、Apgar Scoreも >7 が22例であった。日齢7までの早発型26例中、母体の発熱は5例にすぎず、早(前)期破水2例、羊水混濁も5例にすぎず、通常細菌感染の場合に比し、感染を思わせる母体側の因子に乏しく、垂直感染源としての母体の不顕性感染の重要性が示唆された。

7) ウイルス分離による従来の診断方法では結果の判明に4~6週を要する場合は殆んどで、全てretrospectiveの診断であり、血清中和抗体価も型特異性で早期診断には役立たず、今後、早期診断のためには新しいウイルス学的な診断手法の開発が極めて重要であろうと考えられる。

分離陽性部位 (35例)

(検体)		
髄液	16	} 56
咽頭粘液	17	
糞便	23	
Cox. A ₄	1	} 10
A ₆	1	
A ₉	7	
A ₁₆	1	
Cox. B ₁	1	} 15
B ₂	2	
B ₃	8	
B ₄	1	
B ₅	3	
ECHO 6	2	} 6
7	4	
Polio 1	1	
NT	3	

(表1)

早発例と産科因子 (26例)

母体発熱	5
早(前)期破水	2
羊水混濁	5
遷延分娩	0
臍帯異常	2 (極短1, 2重巻絡1)
胎位異常	2 (骨盤位1, 上肢脱出1)
Apgar 9~10	19
7~8	3
不明	4

(表3)

<季節>	{	12 - 2月	4	} 33
		3 - 5月	2	
		6 - 8月	18	
		9 - 11月	15	
性	{	♂	20	
		♀	19	

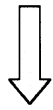
正期産 39/39 早期産 0

<出生体重>	{	~ 2499g	4
		2500g ~	35

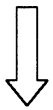
(表2)

<病像>	{	~7	26
		8~	13

無菌性髄膜炎	30
無菌性髄膜脳炎	3
発熱	3
発疹症	1
肺炎・心嚢炎	1
心筋炎	1
メレナ	1



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的

前三年間の班研究に於いて、新生児中枢神経系ウイルス感染症の病因として、エンテロウイルス(EV)が最も重要であること、新生児室でのウイルス水平感染の主因としてもEVが重要であることが明らかにされた。そこでその予防対策の一つとしての、EV感染散発例の早期診断の基礎として、病像の早期把握、ウイルス学的早期診断の方法の検討などが重要な課題と考えられる。その究明のためにはEV散発例の可及的多数例の集積と、それによる病像の把握が先決である。